

(3) 養護教育交流推進事業（県単事業）

- ① 心身障害児と健常児とが、共同の生活体験をもつことにより、健常児には障害者に対する正しい理解と認識を高め、障害児には積極的に社会に参加する態度の育成を目的に、昭和54年度より継続実施した。事業の充実を図るため、59年度より新たに地域指導者を参加させ地域社会との交流推進に努めた。
- ② 昭和59年度の実施状況

〈交 歓 会〉

対 象 校	実施期日	場 所	参加者数
郡山養護学校 喜久田小学 小 学 部 校	昭和59年 10月2日	那須甲子少年自然の家	141人
いわき養護学校 大浦小学校 小 学 部	昭和59年 10月9日	三 崎 公 園	103人

〈合同野外活動〉

対 象 校	実施期日	場 所	参加者数
郡山養護学校 片平中学校 中 学 部	昭和59年 10月4日～ 昭和59年 10月5日	会津少年自然の家	77人
いわき養護学校 藤間中学校 中 学 部	昭和59年 9月11日～ 昭和59年 9月12日	郡山少年自然の家	87人

- ③ 養護教育の諸学校においては、本年度より二巡目となり交流校の拡大を図るとともに、地域指導者の協力を得て、事業内容の充実と地域社会との交流を深めることに努めた。この事業を通して心身障害児と健常児の双方に、当初の予想を上まわる成果をあげるとともに、地域社会の人たちの障害者に対する理解・認識を深めることができた。

8 学 校 訪 問

(1) 目 的

県立盲・聾・養護学校及び市立養護学校並びに特殊学級設置小・中学校を訪問し、学習指導、生活指導、管理運営

(3) 訪 問 学 校

〈県立盲・聾・養護学校〉

月	日	曜	学 校 名	養 護 教 育 課				高 校 教 育 課		教 育 事 務 所	学 校 教 育 指 導 委 員
				課 主 補	長 幹 佐	管 理	指 導	管 理 (駐 在)	指 導 (駐 在)		
5	30	水	いわき養護学校	主 幹	高 城	斉 藤	相 楽	榊 原		佐 藤	
6	4	月	聾 学 校	主 幹	小 松	丹 野 根	柿 沼	松 本		小 林	
6	11	月	須賀川養護学校竹田分校	補 佐	小 松	根 本	菅 野	古 川	小 松	渡 辺	
6	20	水	平養護学校翠ヶ丘分校	課 長	小 松	鈴 木	相 楽	榊 原	市 川	渡 辺	
7	3	火	猪苗代養護学校	補 佐	高 城	斉 藤 石	菅 野	古 川	小 松	大 竹	

等の実態を踏まえて、学校・学級経営の充実を期するための諸問題について検討し、必要に応じて相談、助言、指導を行う。

(2) 訪 問 者

① 養護教育課

課 長	金 澤 英 夫
主 幹	後 藤 眞 太 郎
課長補佐	亀 岡 貞 男
主任管理主事（兼振興係長）	小 松 忠 夫
管理主事	高 城 俊 春
主任指導主事	斉 藤 眞 良
指導主事	鈴 木 信 良
〃	丹 野 功 一
〃	石 井 満
〃	根 本 乃 男

② 高校教育課

県中駐在管理主事	柿 沼 良 訓
会津 〃	菅 野 康 次
相双 〃	洪 谷 芳 明
いわき 〃	相 楽 達
県中駐在指導主事	松 本 敏 則
会津 〃	古 川 雅 弘
相双 〃	渡 部 光 明
いわき 〃	榊 原 久 雄

③ 教育事務所

県中教育事務所 指導主事	諸 橋 恒 夫
会津 〃 〃	小 松 榮
相双 〃 〃	長谷川 件七郎
いわき 〃 〃	市 川 善 明

④ 学校教育指導委員

盲 学 校 教 諭	小 林 光
聾 学 校 教 諭	鈴 木 精
西郷養護学校教諭	大 竹 貞 子
郡山養護学校教諭	渡 辺 高 嘉
須賀川養護学校教諭	芳 賀 良 夫
富岡養護学校教諭	佐 藤 功